J

POLYPHONY

シアターラックシステム

YRS-700

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

必ずはじめに「安全上のご注意」をお読みください（32ページ～34ページ）。

●本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

●保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

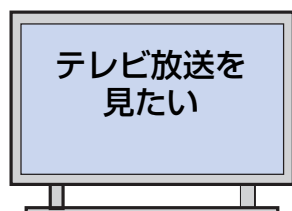
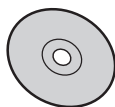
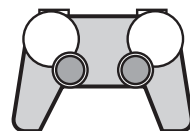
一部アクセサリー 販売終了のお知らせ

Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー YBA-10 は販売終了となりました。
本製品付属の取扱説明書に記載された YBA-10 に関する説明は、既に YBA-10 を
お持ちのお客様向けとなります。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ヤマハ株式会社

ZH14920

本機でできること

必ずはじめに「安全上のご注意」をお読みください（32 ページ～ 34 ページ）

HDMI リンク（HDMI コントロール）機能 p.8

ユニボリューム機能 p.11

ヘッドホンサラウンド機能 p.12

iPod ／ iPhone の再生 p.14

HD オーディオ規格対応 p.31

もくじ

準備

接続・初期設定

再生

設定

困ったときは

本機について

本書の記載について

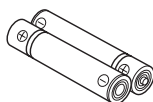
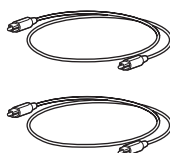
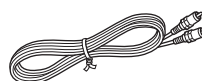
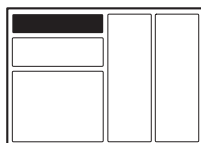
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- **ご注意** では、安全に関する重要な注意事項と操作方法を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合がございますのでご了承ください。
- 左ページの左端にリモコン図が表示されている見開きページは、リモコン図と操作キーを対応させてご覧ください。

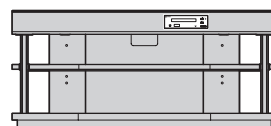
はじめに

同梱品の確認

ご使用になる前に、同梱品がすべてそろっていることを確認してください。1)

リモコン：１個

単４乾電池：２本

光ファイバーケーブル：２本／ 1.5m

ビデオ用ピンケーブル 2)：１本／ 1.5m

設置マニュアル：１枚

取扱説明書（本書）：１冊

本体：１台

本体は組立て式です。以下の部品がすべてそろっていることを確認してください。組立てについては付属の「設置マニュアル」をご参照ください。

- 本体
- 棚板
- 底板
- 天板ガラス
- ダボ
- ネジ（大）M5 × 30mm
- ファスナー
- 後板（左右各 1）
- 支柱
- 後板（中）
- 取付金具
- ネジ（小）M4 × 10mm
- ワッシャー

---

1) 付属のケーブルは、接続状況によって余る場合があります。

2) 本機では iPod ／ iPhone の映像を再生するときに使用します。
詳しくは「iPod ／ iPhone を再生する」（☞14 ページ）

設置

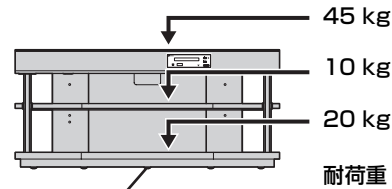
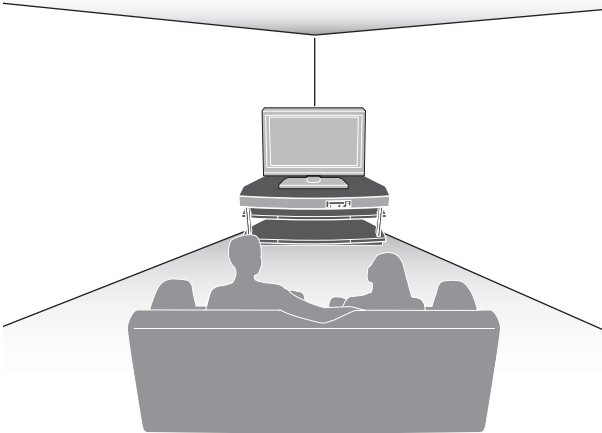
ラックを組立ててから適切な位置に設置します。ラックの組立てに関しては付属の設置マニュアルを参照してください。下記の「設置上のご注意」を参照し、安全な場所に正しく設置してください。

設置上のご注意

- テレビを設置するときは、テレビの取扱説明書に従って転倒防止の処置をしてください。
- 本機のスピーカーには磁石が使われています。磁気の影響を受けるもの（時計、キャッシュカード、フロッピーディスクなど）をラックの上に置かないようにしてください。
- 本機をブラウン管テレビの近くに設置すると、色ムラや雑音などが生じる場合があります。

強化ガラスの取り扱いについてのご注意

天板ガラスは強化処理され、飛散防止フィルムを施してありますが、使い方を誤ると割れるおそれがあります。ガラスが割れると破片が飛び散り、けがの原因になります。下記の注意事項をお守りください。

- ガラスに物をぶつけるなど、強い衝撃を与えない。
- 鋭利なものでガラス面を突いたりしない。
- 強化ガラスに傷がつくと突然割れることがあります。傷がついたときは速やかにお取り替えください。
- 強化ガラスに貼られているシールははがさずに使用してください。

インテリアスライドシート

本体底面にはインテリアスライドシートが貼付されており、設置場所までスムーズに移動させることができます。本体の移動の際は床を傷つけないように、ごみ、ほこりなどを取り除いてから移動させてください。

リモコンの準備

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」および「リモコン」をよくお読みください。

リモコンに電池を入れる

リモコンの操作範囲

接続

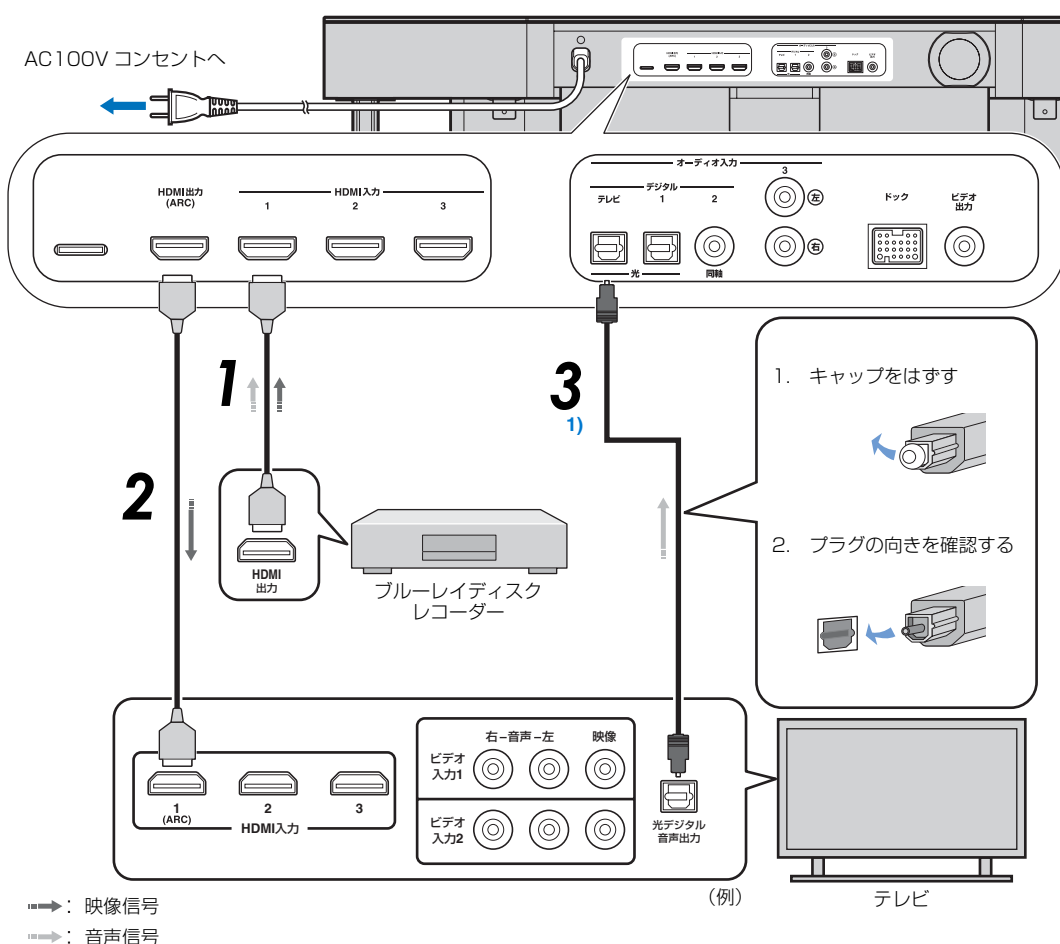
- 電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。
- ケーブルプラグや端子に損傷をあたえる原因となりますので、プラグを差し込む際に強い衝撃をあたえないようにしてください。

テレビ、ブルーレイディスクレコーダーの接続

ケーブルは以下の順番で接続してください。

1 HDMI ケーブル（別売）
ブルーレイディスクのデジタル映像・音声を本機に入力します。

2 HDMI ケーブル（別売）
ブルーレイディスクのデジタル映像をテレビに映します。

3 光ファイバーケーブル（付属）
テレビのデジタル音声を本機で再生します。

1)

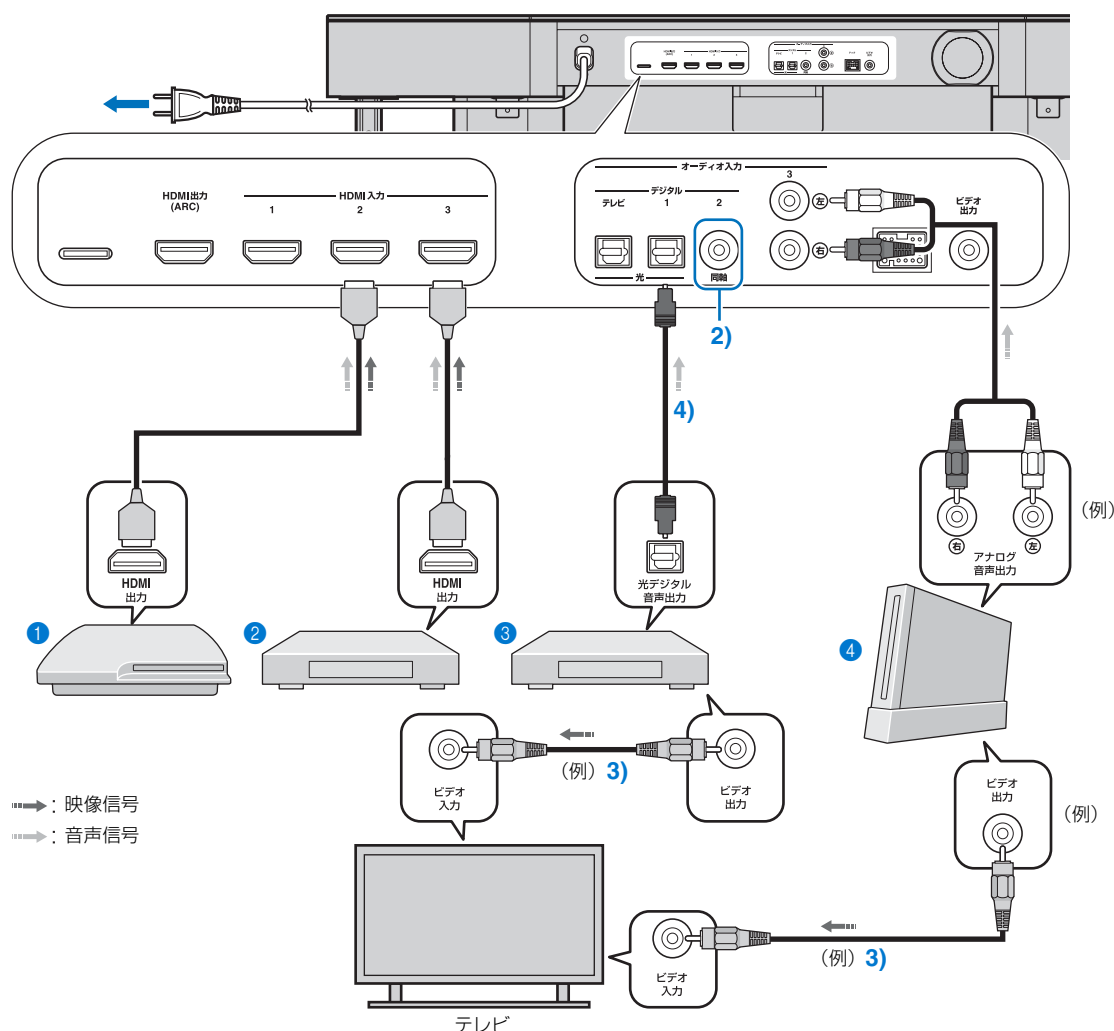
オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビの場合

- HDMI ケーブルはテレビのオーディオリターンチャンネル対応端子（「ARC」などの表示のある端子）に接続してください。この場合、光ファイバーケーブルの接続は必要ありません。
- 本機の ARC を有効にするには、HDMI コントロール機能を有効にしてください（☞19 ページ）。

オーディオリターンチャンネル（ARC）とは？

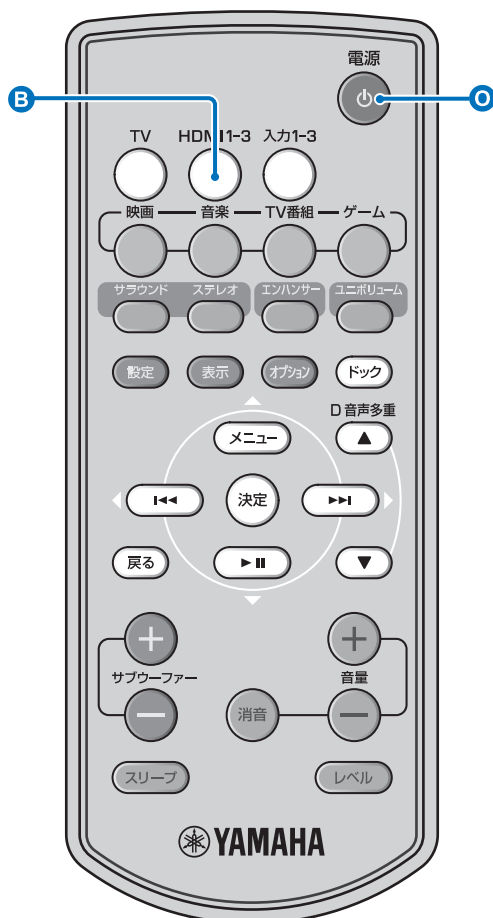
テレビの出力するデジタルオーディオ信号を、HDMI ケーブルを通して本機へ伝送する機能です。この機能により、テレビから本機へ接続する光ファイバーケーブルを省略することができます。

ゲーム機やチューナーなどの接続

追加する外部機器（例）	接続ケーブル
❶ HDMI 対応のゲーム機	HDMI ケーブル（別売）
❷ 衛星放送、ケーブルテレビチューナー（HDMI 対応）	HDMI ケーブル（別売）
❸ 衛星放送、ケーブルテレビチューナー（HDMI 非対応）	光ファイバーケーブル（付属）3)
❹ HDMI 非対応のゲーム機	アナログ音声用ステレオピンケーブル（別売）3)

2) 追加機器で同軸デジタル出力端子がある機器の場合は市販のデジタル音声用ピンケーブルで本機同軸デジタル入力端子と接続してください。

3) テレビとゲーム機やチューナーを接続するため、別途映像用のケーブルが必要です。

4) 接続の際はキャップを外してください。

初めて使うときの設定

テレビのリモコンで本機を操作する（HDMIコントロール機能）

HDMI コントロール機能とは

HDMIを使用したコントロール機能（リンク機能）に対応しているテレビ（一部を除く）と本機をHDMIケーブルで接続した場合、テレビのリモコンで本機を操作できます（例：レグザリンク）。操作できる機能は主に以下の４つです。1)

テレビのリモコン（例）

このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。
- デジタル放送のジャンル情報に合わせて最適なサラウンドモード（☞11 ページ）を自動的に選択（おまかせサラウンド機能）。2)
- ユニボリューム機能のオン／オフ
- デジタル音声多重の切り替え

---

1)

- HDMIを使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMIを使ったコントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダーなどをHDMIで接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記WEBサイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/

2)

おまかせサラウンド機能
- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機をHDMIケーブルで接続し、HDMIコントロール機能を有効にしてください（☞19 ページ）。
- 対応するテレビについては下記WEBサイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/omakase_surround/

HDMI コントロール機能の設定

1 HDMI で接続しているすべての機器の電源をオンにする。

2 HDMI で接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。

本機側では、「HDMI Ctrl」が「On」に設定されていることを確認します(☞19 ページ)。[3)]
外部機器側については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。[4)]

3 テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする。

4 テレビのリモコンを使って本機の電源をオンにしたり、音量を調節したりして、本機が正しく連動しているか確認する。

連動機能が動作しないときは

以下のことをご確認ください。
— テレビが本機のHDMI出力(ARC)端子に接続されている
— 「HDMI Ctrl」(☞19 ページ)が「On」に設定されている
— テレビ側の設定でHDMIコントロール機能が有効になっている(電源連動機能や優先スピーカーの設定など関連する設定も確認してください)
それでも連動機能が動作しない場合は、
— 本機･テレビの電源をオン/オフしてください。
— 本機およびHDMI接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経ってから、接続し直してください。
— 入力 1、入力 2、入力 3 またはドックを選択したあとは、テレビの入力と本機の入力をそれぞれ同じものに切り替えてください。

HDMI 機器のテレビへの登録 [5)]

1 テレビの入力を本機に切り替える。

2 本機に接続した、HDMI コントロール機能に対応しているブルーレイディスクレコーダーなどの電源をオンにする。

3 本機の入力をブルーレイディスクレコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

ブルーレイディスクレコーダーをHDMI入力 1 端子で接続している場合、B 入力選択キーを 1 回押して下図のように表示させせます。

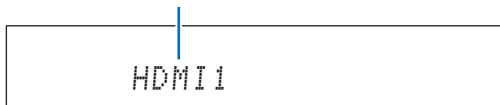
入力ソース名

HDMI1

接続方法や接続機器を変更する

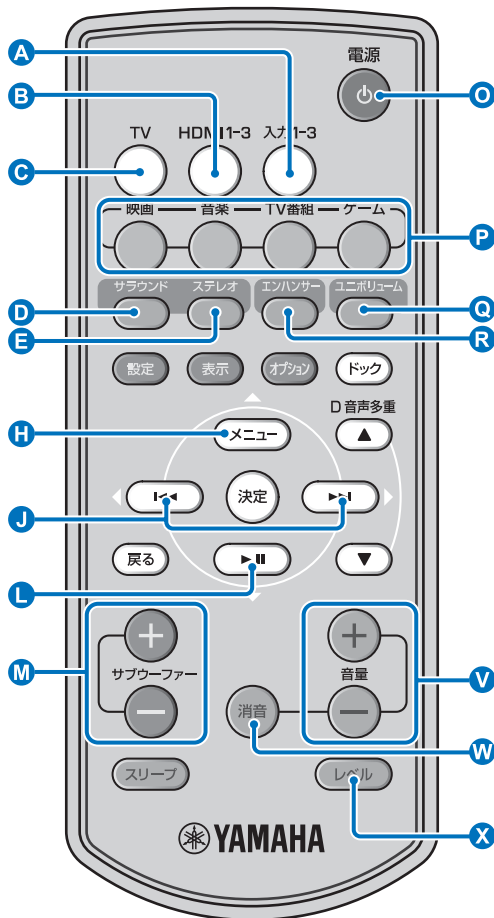
接続する機器や端子を変更した場合は以下の手順で再設定してください。

1 一度テレビやレコーダーの HDMI コントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。

2 「HDMI コントロール機能の設定」の手順 1～3 を再度操作する。

3)
- 初期設定では「On」に設定されています。
- **「HDMI Ctrl」が「On」に設定されているとき**
  – O 電源(⏻)キーを押しても、完全な電源オフ状態にはならず、HDMI 入力端子から HDMI 出力(ARC)端子へ信号が出力されます。
  – 電源を切る前に、視聴したい機器が接続された HDMI 入力(1 ～ 3)端子を選択しておく必要があります。
  – テレビによっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される場合があります。

4)
テレビの設定の例
- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」(例)を選択し、「HDMI 連動機能」などの項目を「連動する(使用する)」に設定してください。
- 「優先スピーカー」などの設定は「AV アンプ」にしてください。

5)
HDMI コントロール機能を設定するだけで本機能を使用できる HDMI 機器もあります。この場合、HDMI 機器のテレビへの登録は必要ありません。

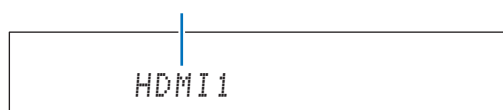
再生

再生の基本手順

1 O 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 本機に接続した機器（テレビ、ブルーレイディスクレコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。

3 外部機器の接続に合わせて、入力選択キー（A、B、C）を押して、聴きたい機器の入力を選ぶ。

例えば、HDMI 入力 1 端子に接続したブルーレイディスクレコーダーを再生する場合、B入力選択キーを押して、HDMI1 を選択して、下記のように表示させます。

入力ソース名

4 手順 3 で選択した機器を再生する。

5 音量を調節するには、V音量（+／−）キーを押す。1) 2) 3)

6 サラウンドモード、ステレオモードなどを選び、お好みのサウンドに設定する。（☞11 ページ）

使用後は、O 電源（⏻）キーを押し、本機の電源をスタンバイにする。

1)
テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。

2)
一時的に消音にするには
リモコンのW消音キーを押します。消音機能を使って再生しているときは、フロントパネルディスプレイの VOLUME インジケーターが点滅します。消音を解除するには再度W消音キーを押すかV音量（+／−）キーを押します。

3) **ご注意**
HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンのV音量（+／−）キーやW消音キーを押しても音量は変化しません。

4)
入力ごとに設定されたモードを記憶します。他の入力を選択すると、自動的に前回設定されたモードになります。

お好みのサウンドを楽しむ

サラウンド音声の再生

ヤマハ独自の音場創生技術エアサラウンド・エクストリームを用いてサラウンドで再生します。

1 Ⓓサラウンドキーを押して、サラウンドモードに切り替える。

2 いずれかのⓅサラウンドモードキーを押す。4)

ステレオ音声の再生

2チャンネルのステレオで再生します。

Ⓔステレオキーを押して、ステレオモードに切り替える。

Ⓔステレオキーを押すたびに、拡張ステレオ機能のオン（Extended Stereo）／オフ（Stereo）が切り替わります。
Stereo：音響効果をかけずにステレオで再生します。
Extended Stereo：「Stereo」よりも拡がりを感じるサウンドを得られます。

MP3 や WMA などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー）

MP3やWMAなどの圧縮音声を、低音域と高音域を強調、拡張してダイナミックに再生します。

Ⓡエンハンサーキーを押して、機能のオン／オフを切り替える。 5)

音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）

テレビを視聴中、以下のような場合に、過大な音量の差を補正して聞きやすくします。
- チャンネルを切り替えた
- 番組から CM へ変わった
- 番組が終わって次の番組が始まった

Ⓠユニボリュームキーを押して、機能のオン／オフを切り替える。 6)

各チャンネルの音量バランスの調整

再生しながら、各チャンネルの音量バランスを調節することができます。7)

1 Ⓧレベルキーを押す。

2 Ⓗ△ ／ Ⓛ▽ キーを押して，以下から調節したいチャンネルを選択する。

CenterLv：センター
SurLR Lv：サラウンド左／ 右
SWFR Lv：サブウーファー

3 Ⓙ◁ ／ ▷ キーを押して、音量レベルを調節する。8)

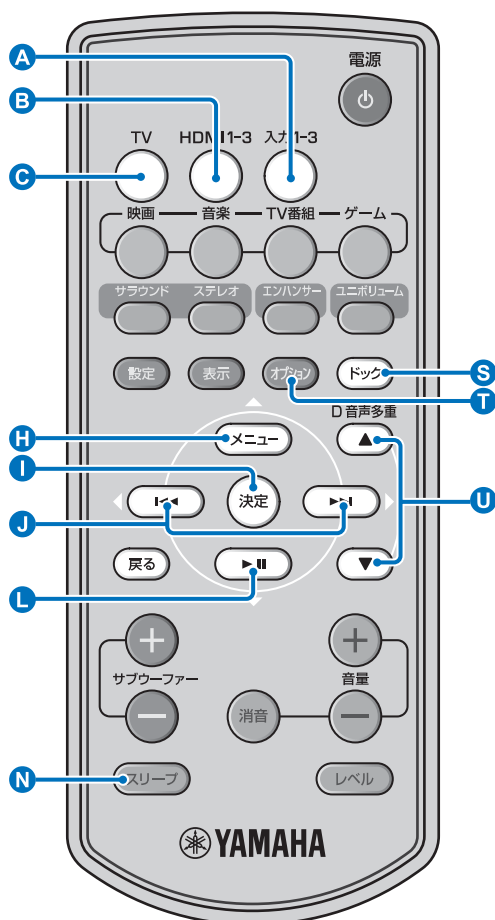
調節範囲：-10.0dB～+10.0dB

4 Ⓧレベルキーを押して、設定を終了する。

5)
- DOCK（ドック）入力時はオン、DOCK（ドック）以外の入力時はオフに初期設定されています。
- 次のデジタル音声信号の場合、ミュージックエンハンサーは動作しません
  - ドルビー TrueHD、DTS-HD マスターオーディオなどの信号
  - サンプリングレートが 48kHz を超える信号

6)
- 初期設定ではオンに設定されています。
- ユニボリュームをオフにするには、Ⓠユニボリュームキーを押してください。
- 音楽ソースを再生するときは、オフにすることをおすすめします。

7)
テスト音を聴きながら調節する場合は「各チャンネルの音量バランスの調整」（☞19 ページ）を参照ください。

8)
音量バランスの調整例
- セリフが聞き取りにくい場合：CenterLv（センター）を選び、レベルを上げます。
  音の包囲感が少ない場合：SurLR Lv（サラウンド）を選び、レベルを上げます。
- サブウーファーの音量はⓂサブウーファー（＋／−）キーを使用して調整することもできます。

便利な機能を使う

ヘッドホンで聴く

本機のヘッドホン端子(☞ 25 ページ)にヘッドホンのプラグを差し込む。1)

ヘッドホン使用中のサラウンド音声について

新開発の7.1chヘッドフォン・サラウンド技術により、ヘッドホンを使用する場合でも、スピーカーによる再生と同様にサラウンド音声やステレオ音声をお楽しみいただけます(☞11 ページ)。

二カ国語放送の音声の切り替え

BS／地上デジタル放送のAACやドルビーデジタルの音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。2)

U（▲）音声多重キーを繰り返し押す。

再生する音声の設定が切り替わります。3)

選択項目：Main*、Sub、Main＋Sub

Main：主音声を出力します。
Sub：副音声を出力します。
Main＋Sub：主音声と副音声の両方を出力します。

スリープタイマー／オートパワーダウン機能

一定時間経過後に本機の電源を自動的にスタンバイにします。

Nスリープキーを繰り返し押す。

スタンバイ状態になるまでの時間が切り替わります。フロントパネルディスプレイにSLEEPインジケーター（☞26 ページ）が点滅します。
SLEEPインジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。4)

選択項目：Sleep 120 min.、Sleep 90 min.、Sleep 60 min.、Sleep 30 min.、AutoPowerDown、Off

1)
- ヘッドホンの音量とトーンコントロール、LFE レベルは、スピーカーの設定とは別に設定できます。
- LFE チャンネル (0.1ch) が含まれる 5.1 チャンネルや 7.1 チャンネルなどを再生し、低音が過剰に聴こえたりする場合は、LFE レベルを下げると改善することがあります。(☞17 ページ)

2)
この設定は DUAL インジケーターが点灯しているときに有効です。

3)
ソースに副音声が収録されていない場合、音声は切り替わりません。

オートパワーダウン機能 5)

AutoPowerDownに設定すると、選択している入力が電源オフ（またはスタンバイ状態）になってから10分後に自動的にスタンバイにします。電源の消し忘れを防止するのに便利な設定です。

入力ごとの設定（オプションメニュー）

入力（TV／HDMI1～3／入力1～3／ドック）ごとに設定します。入力により、設定できる項目は異なります。

1 入力選択キー（Ⓐ、Ⓑ、Ⓒ、Ⓢ）を押して、設定を変更する入力を選択する。

2 Ⓣオプションキーを押す。

オプションメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。

```
·Volume Trim
```

3 Ⓗ△／Ⓛ▽キーで項目を選択し、Ⓘ決定キーを押す。

4 Ⓙ◁／▷キーを押して、設定値を変更する。

5 Ⓣオプションキーを押して、オプションメニューを終了する。

オプションメニュー項目一覧

各入力には、以下のようなメニューアイテムがあります。

入力ソース	メニュー項目
HDMI1-3	Volume Trim、Decoder Mode、Signal Info
TV	
入力1-3（INPUT1-3）	
ドック（DOCK）	Volume Trim、Connect、Disconnect、Pairing、Interlock 6)

オプションメニュー項目の内容は以下のとおりです。現在選択している入力に設定が反映されます。「＊」は初期設定を表しています。

各端子の入力レベル設定（Volume Trim）

端子ごとに入力レベルを設定して、入力機器毎の異なる音量のばらつきを調節します。

調整範囲：－6.0dB～0.0dB*～＋6.0dB

再生するデジタル音声信号の設定（Decoder Mode）

再生する音声信号を選択します。

選択項目：Auto*、DTS、AAC

Auto：本機が自動的に選択して再生します。通常はこのモードを選択してください。

DTS：DTS信号のみ再生します。

AAC：AAC信号のみ再生します。

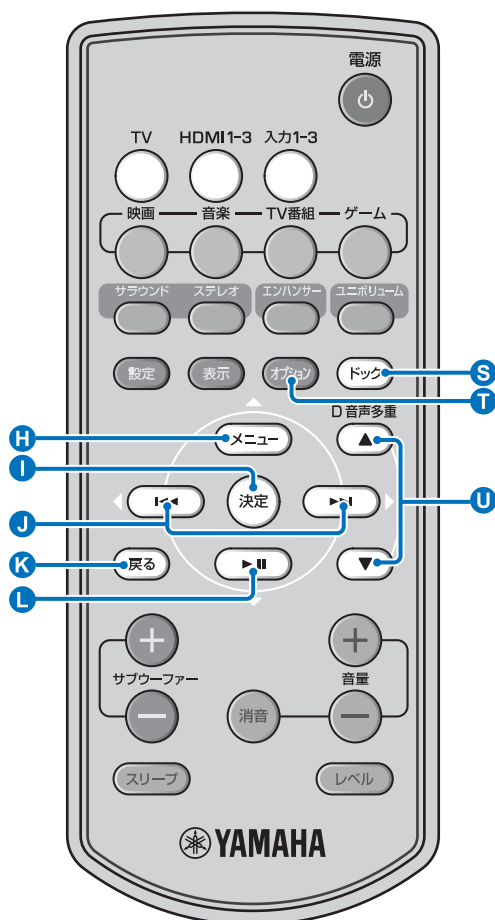
入力信号に関する情報の表示（Signal Info）

Ⓗ△／Ⓛ▽キーで表示される情報を切り替えます。

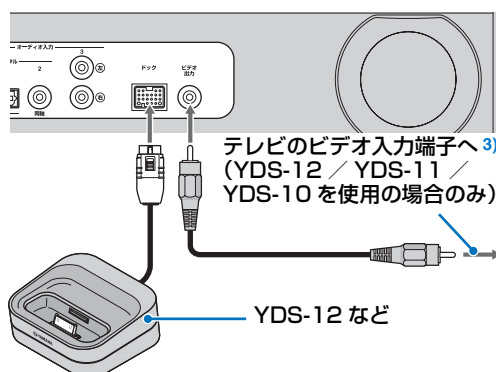
Format	デジタル音声のフォーマット
Channel	入力信号に含まれているチャンネル数（フロント／サラウンド／LFE（低域効果音））表示例：「3／2／0.1」→ 入力信号にフロント3ch、サラウンド2ch、LFEあり 1)
Sampling	デジタル入力信号のサンプリング周波数
Bitrate	入力信号の1秒あたりのビットレート
HDMI In	HDMI映像信号の解像度
HDMI Message	HDMIに関するエラー表示（エラーが発生しているときのみ表示）

4)
- 「Off」を選択するか、電源をスタンバイにすると、スリープタイマーは解除されます。
- AutoPowerDownに設定した場合、再生中にSLEEPインジケーターは点灯しません。

5)
- スタンバイになるまでの10分間に本機を操作した場合は、操作の10分後にスタンバイになります。
- 次の入力、条件ではAutoPowerDownを選択できません。
  －アナログ（入力3）、DOCK
  －HDMI 1-3（HDMIコントロール機能が有効のとき）

6)
Interlockについては「iPod／iPhoneの再生」（☞14ページ）、Connect、Disconnect、Pairingについては「Bluetooth対応機器の再生」（☞15ページ）を参照してください。

iPod ／ iPhone の再生

ヤマハ製iPod用ユニバーサルドック（別売YDS-12など）やiPod／iPhoneシリーズ専用ワイヤレスシステム（別売YID-W10）を本機に接続してiPod／iPhoneに保存された音楽を再生することができます。

1 **ヤマハ製iPod用ユニバーサルドックまたはiPod／iPhoneシリーズ専用ワイヤレスシステムをドック端子に接続し、iPod／iPhoneをセットする。** 2)

雑音を避けるため本機からできるだけ離して設置してください。

2 **S ドックキーを押し、ドック入力を選択してからiPod／iPhoneを再生する。** 4)

ヤマハ製iPod用ユニバーサルドック（YDS-12など）を使用する場合 5)

ドックにiPod／iPhoneを設置し、本機のリモコンを使ってiPod／iPhoneの再生操作をすることができます。iPod／iPhoneのビデオ映像をテレビに映すこともできます。

1)

表示例の方法で表現できないチャンネルを含んでいる場合は、「5.1ｃｈ」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。

2)

- 本機の電源がオフの状態のときに接続してください。
- YDS-12やYID-W10などの接続および設定について詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。
- 本機からケーブルをはずす場合は、プラグ上部の突起部を押しながらはずしてください。

3)

iPod用ユニバーサルドックを接続している場合、本機のビデオ出力端子とテレビ側のビデオ入力端子をビデオ用ピンケーブル（付属）で接続すると、iPod/iPhoneのビデオ映像をテレビに映すことができます。その際、テレビは接続した入力に設定してください。

4) **ご注意**

- iPod／iPhoneの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。
- iPod／iPhone接続時にフロントパネルディスプレイに表示されるメッセージについては、「困ったときは」の「iPod／iPhone」（☞ 23ページ）を参照してください。
- あらかじめボリュームを最小にしてから、iPod／iPhoneの着脱を行ってください。

ⒽⒾⒿⓀⓁ：iPodのメニューを操作します
Ⓤ：iPod ホイールを操作します

ユニバーサルドック(YDS-12／YDS-11／YDS-10) に対応するiPod／iPhone

(2010年９月現在)
iPod touch、iPod mini、iPod(第４世代、第５世代)、iPod Classic、iPod nano 、iPhone 、iPhone 3G 、iPhone 3GS
ただし、YDS-11／YDS-10はiPhoneシリーズに対応していません。

ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）を使用する場合 6)

ドックにレシーバーを接続し、iPod／iPhoneにワイヤレストランスミッターを接続することで、iPod／iPhoneをリモコンのように使いながら再生することができます。

ワイヤレスシステムに対応するiPod／iPhone

(2010年９月現在)
iPod touch、iPod(第５世代)、iPod Classic、iPod nano、iPhone、iPhone 3G、iPhone3GS

本機と iPod ／ iPhone の連動 7)

YID-W10を使用する場合、オプションメニュー(☞13 ページ) の「Interlock」を「On」に設定すると、お使いのiPod/iPhoneで以下のような機能を使用することができます。

- iPod/iPhoneで再生を開始すると、本機の電源がオンになり、入力がDOCK（iPod）になります。
- iPod/iPhone　をトランスミッターから取り外すか、再生を停止してしばらくすると本機は自動的にスタンバイになります。

Bluetooth 対応機器の再生

Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを接続して、Bluetooth 機器（携帯オーディオプレーヤー、Bluetooth 搭載のコンピューターなど）に保存された音楽を再生できます。

ペアリング

「ペアリング」とは

通信を行う機器を本機に登録する操作です。初めてBluetooth 接続を使うときや、登録されていたペアリング情報が削除されたときは、この操作が必要です。
セキュリティ確保のため、ペアリング操作には８分間の制限時間が設けられています。一度すべての手順を読んでから実際の操作を行うことをおすすめします。

1 「iPod／iPhoneの再生」の手順１(☞14 ページ) と同様に Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー(YBA-10)をドック端子に接続する。8)

2 リモコンのⓈドックキーを押し、ドック入力に切り替える。

3 ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリング状態にする。9)

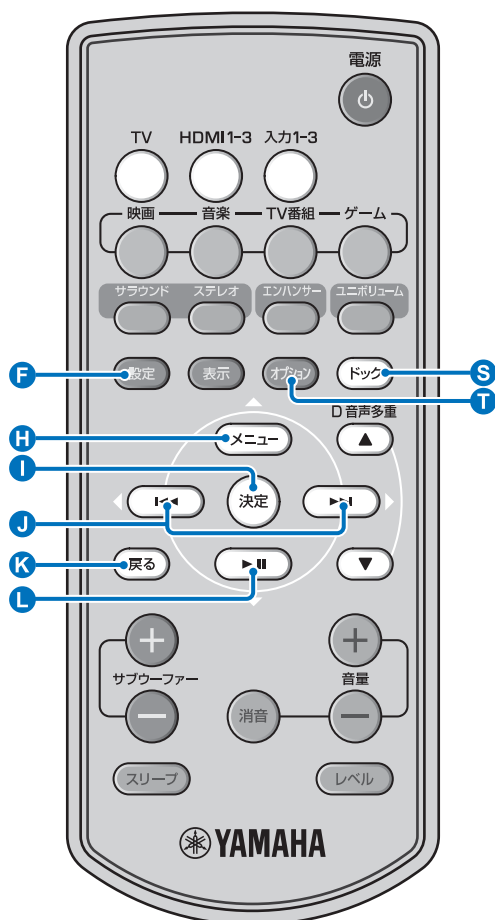
次のページに続く →

5)
本機がスタンバイ状態の場合でも、ドック端子に接続したヤマハ製ドックに設置されているiPod／iPhoneを充電できます。フロントパネルディスプレイには「Charging」と表示されます。

6)
- YID-W10を使用して、「Interlock」を「On」にしている場合は、本機がスタンバイでも充電できます。
- iPod／iPhoneの最大音量よりもさらに大きな音量で再生する場合は、本機のリモコンで音量を上げてください。

7)
この機能はアプリケーションの音声や着信音でも機能します。iPhoneをサイレントモードに設定すれば、着信音などで本機の電源と連動しません。

8)
詳しくは YBA-10 付属の取扱説明書をご覧ください。

9)
詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の説明書をご覧ください。

4 **Ⓣオプションキーを押す。**

ドック入力のオプションメニューが表示されます。

5 **Ⓗ△/Ⓛ▽ キーを押して「Pairing」を選び、Ⓘ決定キーを押す。** 1)

Bluetooth 接続が開始されると、フロントパネルディスプレイに「Searching...」と表示されます。

6 **Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認する。**

Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識している場合は、Bluetooth 機器のデバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」(例) と表示されます。

7 **Bluetooth 機器のデバイスリストから Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。**

接続 2)

1 **リモコンのⓈドックキーを押し、ドック入力に切り替える。**

2 **Ⓣオプションキーを押す。**

3 **「Connect」を選び、Ⓘ決定キーを押す。** 3)

4 **Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続を解除するにはもう一度Ⓣオプションキーを押してオプションメニューを表示させ、「Disconnect」を選択してⓘ決定キーを押す。**

---

1)
ペアリングをキャンセルするときは、リモコンのⓀ戻るキーを押します。

2)
本機からの接続操作は、前回接続した Bluetooth 機器のみが接続対象となります。

3)
- 表示については、「困ったときは」の「Bluetooth」(☞24 ページ) を参照してください。
- 前回接続された Bluetooth 機器以外と接続したい場合は、その Bluetooth 機器側から接続操作を行ってください。詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。

設定メニュー

設定メニューリスト

カテゴリー	メニュー	サブメニュー	内容	ページ
Sound Setup	Tone Control	Treble	音色を調整する	☞17 ページ
		Bass		
	Subwoofer	LFE Level	サブウーファーの設定をする	☞17 ページ
	Audio Delay	Lip Sync	映像と音声のタイミングを調整する	☞18 ページ
		TV	音声信号の出力タイミングを手動で設定する	
		HDMI1-3		
		INPUT1-3		
	DRC Setup	Adapti.DRC	ダイナミックレンジ圧縮を設定する	☞18 ページ
		D.DRC		
	Ch Level	CenterLv	テスト音を聴いて音量バランスを調整する	☞19 ページ
		SurLR Lv		
		SWFR Lv		
Input Menu	Input Assign	Opt 1	音声入力端子の割り当てを変更する	☞19 ページ
		Opt 2		
		Coax		
		Ana.		
		HDMI1	HDMI 端子の音声出力を設定する	
		HDMI2		
		HDMI3		
	HDMI Setup	HDMI Ctrl	HDMI に関する設定をする	☞19 ページ
		Support		
Display Menu	Front Display	Std Dimmer	フロントパネルディスプレイの明るさを変える	☞20 ページ
		Auto Dimmer		

操作手順

1 **Ⓕ設定キーを押す。**

フロントパネルディスプレイに「Sound Setup」が表示されます。

2 **Ⓗ△ ／Ⓛ▽ キーを押してメニューを選択し、Ⓘ決定キーを押す。**

設定したいメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。

3 **Ⓙ◁ ／ ▷ キーを押して、各メニューの設定値を調節する。**1)

4 **Ⓕ設定キーを押して、設定メニューを解除する。**2)

音色の調整

メニュー表示：Tone Control

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

サブメニュー表示：Treble（高音）、Bass（低音）

調整範囲：－8.0dB～0.0dB*～＋8.0dB

サブウーファーの設定

メニュー表示：Subwoofer

ドルビーデジタル、DTS、および AAC 信号に含まれている LFE（低域効果音）の音量を調節します。3)

サブメニュー表示：LFE Level

調整範囲：－20dB～0dB*

1)

設定値の「*」は初期設定を表しています。

2)

Ⓚ戻るキーを押すと、ひとつ手前のメニュー表示に戻ります。

3)

LFE とは？

デジタル音声に含まれる低域の効果音です。ドルビーデジタル、DTS などのデジタル信号では専用のチャンネルが用意されています。

映像と音声のタイミング調整

メニュー表示：Audio Delay

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて表示されることがあります。このタイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

サブメニュー表示：Lip Sync

出力タイミングの補正方法を設定します。

選択項目：On*、Off

「On（オン）」：出力タイミングが自動的に調節されます。HDMIで接続されたテレビがリップシンクの自動補正機能に対応しているときのみ有効です。
「Off（オフ）」：テレビが自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合に選択します。次の項目で遅延時間を入力ごとに手動で調節できます。

サブメニュー表示：TV

テレビ端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。

調整範囲：0ms*～300ms

サブメニュー表示：HDMI1-3

HDMI入力端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。「Lip Sync」が「Off」のときに有効になります。

調整範囲：0ms～30ms*～300ms

サブメニュー表示：INPUT1／INPUT2／INPUT3

INPUT1／INPUT2／INPUT3端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。

調整範囲：0ms～30ms*～300ms

ダイナミックレンジ圧縮の設定

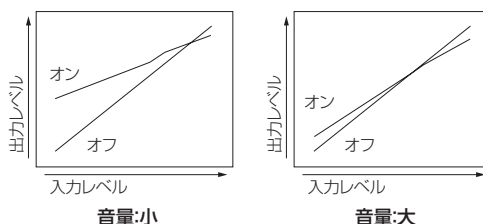
メニュー表示：DRC Setup

音量を下げて再生したり、夜間に再生したりするときのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を設定します。

サブメニュー表示：Adapti. DRC 1)

本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。「ON」に設定すると、ダイナミックレンジは以下のように調節されます。
音量を小さくしたとき：
ダイナミックレンジが狭くなります。大きな音は音量を小さめに、聞き取りにくい小さな音は大きめに再生します。
音量を大きくしたとき：
ダイナミックレンジが広くなります。小さな音から大きな音まで、ソースの持つ音量のまま再生します。

音量:小

音量:大

選択項目：On*、Off

「On（オン）」：ダイナミックレンジを自動調節します。2)
「Off（オフ）」：ダイナミックレンジを自動調節しません。

サブメニュー表示：D.DRC

ドルビーデジタル、およびDTS再生時のダイナミックレンジを設定します。

選択項目：Min/Auto、Standard、Max*

Min/Auto（最小/自動）：
（最小）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。

---

1)
- 「On」に設定すると、「D.DRC」が自動的に「Max」に設定されます。
- ユニボリュームをオンにすると、本設定は無効になります。

2)
夜間などに小音量で聴く際にも聴きやすくなります。

3)
「Max」以外に設定すると、「Adapti. DRC」が自動的に「Off」に設定されます。

4)
HDMI入力を選択した場合は、対応するHDMI入力の設定を「Off」にしてください。

（自動）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
Standard（標準）：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
Max（最大）：入力された信号を補正せず、そのまま再生します。3)

各チャンネルの音量バランスの設定

メニュー表示：Ch Level

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、チャンネル間の音量バランスを調節します。

サブメニュー表示：

CenterLv（センター）
SurLR Lv（サラウンド左／右）
SWFR Lv（サブウーファー）
調整範囲：－ 10.0dB ～＋ 10.0dB

音声入力端子の割り当て設定

メニュー表示：Input Assign 4)

音声入力端子の割り当てを変更します。各端子に設定した割り当てに従って、入力選択時の音声が決定されます。5)

サブメニュー表示 オーディオ入力端子	初期設定
Opt1 デジタル（光）テレビ	TV
Opt2 デジタル（光）1	INPUT1
Coax デジタル（同軸）2	INPUT2
Ana アナログ（オーディオ）3	INPUT3

選択項目：TV、INPUT1、INPUT2、INPUT3、HDMI1、HDMI2、HDMI3

HDMI 入力端子の音声

HDMI 入力端子から入力された映像と、デジタル入力端子またはオーディオ入力端子からの音声を再生したいときに HDMI 音声信号をオフ（Off）に切り替えます。6)

サブメニュー表示：HDMI1、HDMI2、HDMI3
選択項目：Off、On*

HDMI に関する設定

メニュー表示：HDMI Setup

HDMI 信号や HDMI コントロール機能に関する設定をします。

HDMI コントロール

サブメニュー表示：HDMI Ctrl

HDMI コントロール機能（☞8 ページ）のオン／オフを切り替えます。

選択項目：Off、On*

「Off（オフ）」：コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。
「On（オン）」：コントロール機能を有効にします。

音声を再生する機器

サブメニュー表示：Support

HDMI 入力音声信号を再生する機器を設定します。「HDMI Ctrl」が「Off」のときに機能が有効になります。7)

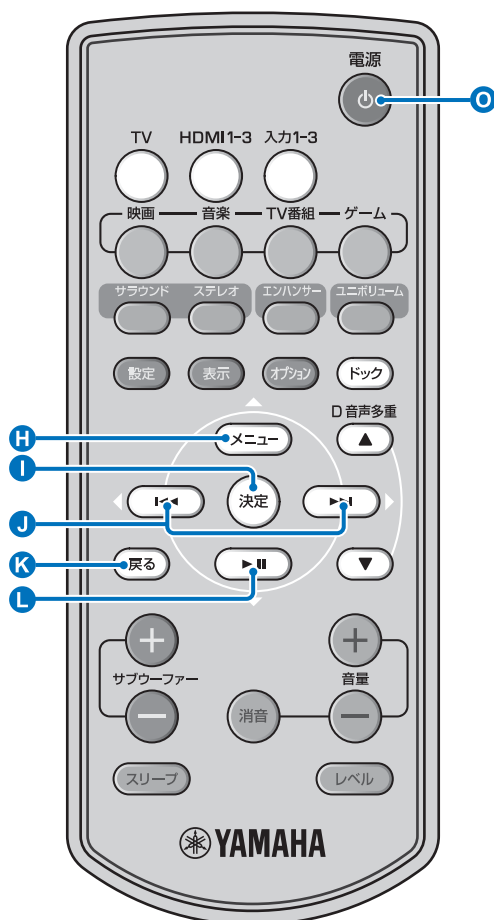
選択項目：YRS*、Other

「YRS」：入力された音声信号を本機で再生します。
「Other」：HDMI 出力（ARC）端子に接続した機器で再生します。

---

5)
他のデジタル音声入力端子ですでに選択されている選択項目は表示されません。

6)
使用例：PC と本機を接続する場合
1 PC の DVI 出力端子と本機の HDMI 入力 3 を DVI → HDMI 変換ケーブルを使って接続する。
2 PC の音声出力端子と本機のオーディオ入力 3 端子（Ana）を接続する。
3「Input Assign」で「Ana」を「HDMI3」に設定する。
4「Input Assign」で「HDMI3」を「Off」に設定する。

7)
本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力（ARC）端子へ出力されます。

フロントパネル表示の設定

メニュー表示：Front Display

フロントパネルディスプレイに関する設定を変更します。

操作時の明るさ

サブメニュー表示：Std Dimmer

本体／リモコンキー操作時のフロントパネルディスプレイの明るさを調整します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目：－2、－1、Off*（最も明るい）

非操作時の明るさ

サブメニュー表示：Auto Dimmer

「操作時の明るさ」の設定値を基準として、通常時（本体／リモコンキー非操作時）のフロントパネルディスプレイの明るさを調節します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目：Disp. Off（非表示）、－3、－2、－1、Off*（最も明るい）

拡張メニュー

1 Ⓞ電源（⏻）キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 本体の INPUT キーを押しながら、リモコンのⓄ電源（⏻）キーを押して電源をオンにする。

フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」と表示されます。

3 本体の INPUT キーをはなす。

4 Ⓗ△／Ⓛ▽キーで、設定したいメニューをフロントパネルディスプレイに表示させ、Ⓘ決定キーを押す。1)

5 Ⓙ◁／▷キーを押して、設定を変更する。2)

6 Ⓞ電源（⏻）キーを押して、電源をスタンバイにする。

再度Ⓞ電源（⏻）キーを押して電源を入れると、設定されます。

設定項目	内容	選択項目／調整範囲
TURN ON VOLUME	起動時の音量	OFF*（設定しない)、01 ～ 99、MAX（最大）
MAX VOLUME SET	音量最大値の制限	01 ～ 99、MAX*（最大）
PANEL INP. KEY	本体 INPUT キーの有効／無効	P.INPUT:ON*（有効） P.INPUT:OFF（無効）
F.PANEL KEY	本体操作キーの有効／無効	F.PANEL:ON*（有効） F.PANEL:OFF（無効）
R.INPUT POWER	スタンバイ状態からリモコンの入力選択キーで起動する	R.INPUT PW:OFF*（起動しない） R.INPUT PW:ON（起動する）
AC ON STANDBY	本機への電源供給が回復したときの状態	AC STANDBY:OFF*（電源遮断前の状態） AC STANDBY:ON（スタンバイ状態）
FACTORY PRESET	設定の初期化	PRST:CANCEL*（初期化しない） PRST:RESET（初期化する）

1) ひとつ前の表示に戻りたい場合は、Ⓚ戻るキーを押してください。

2) 設定値の「*」は初期設定を表しています。

困ったときは

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
電源（⏻）キーを押しても電源が入らない／すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	6
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約 1 時間程度）、電源を入れ直してください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生し直してください。	12
	YID-W10 を使用中、「Interlock」が「On」に設定されている状態で、無線が切断されてしばらく経過したために電源が切れた。	無線接続を再開するか、iPod ／ iPhone の音声を検知させて、本機の電源をオンにする。	—
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	6、7
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUT キーや入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	10
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	10
	消音されている。	消音キーまたは音量＋／−キーを押して消音を解除してください。	10
	本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	—
	「Support」を「Other」に設定している。	「YRS」に設定してください。	19
	「HDMI Ctrl」が「Off」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、「HDMI Ctrl」を「On」に設定してください。	19
		本機の光デジタル入力（テレビ）端子とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	7
	ヘッドホンが接続されている。		
有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—
特定のチャンネル音声が出ない／はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	11、19
	ステレオ再生している。	サラウンド再生してください。	11
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
内蔵サブウーファーから音声が出ない	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		
	サブウーファーのレベルが低い。	サブウーファー＋キーを押してレベルを上げてください。	

症状	原因	対策	参照ページ
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルまたは映像用ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	6、7
	テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	—
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
設定した内容が変わってしまう	「HDMI Ctrl」が「On」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される。	「HDMI Ctrl」を「Off」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	19
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI Ctrl」が「Off」に設定されている。	「On」に設定してください。	19
	テレビのコントロール機能設定が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
「Lip Sync」を「On」に設定しても効果が感じられない	テレビがリップシンクの自動補正機能に対応していない。	「Lip Sync」を「Off」に設定し、遅延時間を手動で設定してください。	18
キー操作時に「Not Available」と表示される	操作したキーは現在の状態では機能しません。		

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30°以内の範囲で操作してください。	5
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください。	5

iPod ／ iPhone

ご注意

ディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いの iPod ／ iPhone の接続を確認してください。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Connect error	iPod ／ iPhone との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続し直してください。	14
		iPod ／ iPhone をヤマハ製 iPod ユニバーサルドックにセットし直してください。	14
Low Battery	iPod ／ iPhone のバッテリーが残りわずかです。		
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod ／ iPhone が接続されています。	本機に対応した iPod を接続してください。	14

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Connected	iPod ／ iPhone がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックに正しく接続されました。		
	iPod ／ iPhone がヤマハ製ワイヤレストランスミッターに正しくセットされ、本機と無線接続しました。		
Disconnected	iPod ／ iPhone がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックから取りはずされました。		
	本機と iPod ／ iPhone の無線接続が切断されました。		
Unable to play	何らかの原因で iPod ／ iPhone を再生できません。	iPod ／ iPhone に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—
Charging	iPod ／ iPhone を充電しています。		

Bluetooth

ご注意

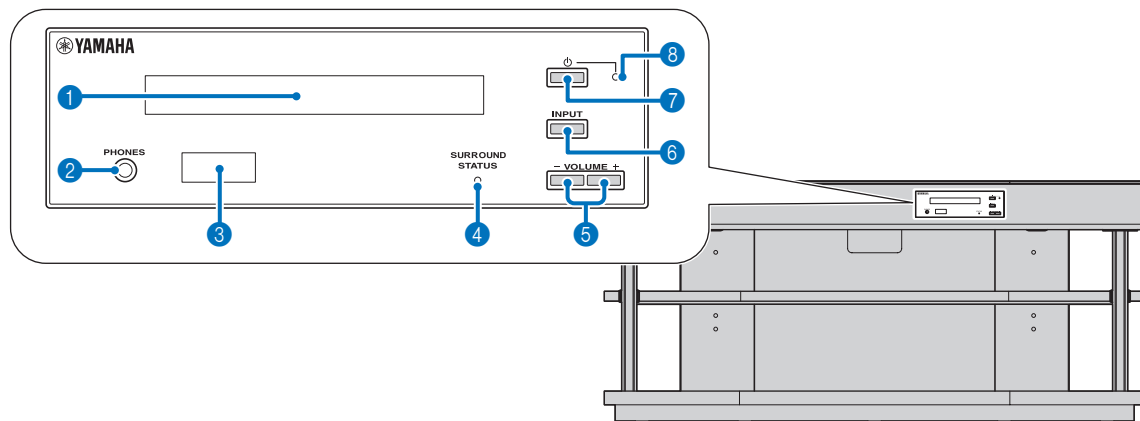
ディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いの Bluetooth 機器を確認してください。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器がペアリングしています。		
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングがキャンセルされました。		
Not available	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器が接続されているときにペアリングしています。		
Connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）と Bluetooth 機器の接続が切断されました。		
Not found	ペアリングや接続しているときに、Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	（ペアリング時） - ペアリングは、本機と Bluetooth 機器で同時にする必要があります。Bluetooth 機器側もペアリングモードになっているか確認してください。 （接続時） - Bluetooth 機器の電源がオンになっているか確認してください。 - ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の距離が 10 メートル以上離れていないか確認してください。	—
		- Bluetooth 機器と本機がペアリングされていない可能性があります。再度ペアリングしてください。	15

本機をリセットする

本機の操作ができなくなったときなどに、リセットすることで問題が解決する場合があります。
本機をリセットするには、本体の電源キーを 10 秒以上押し続けてください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）

❶ フロントパネルディスプレイ

再生の状態や設定値などを表示します（☞26 ページ）。

❷ ヘッドホン端子

ヘッドホンのプラグを差し込みます（☞12 ページ）。

❸ リモコン受光部

リモコンの赤外線信号を受信します（☞27 ページ）。

❹ SURROUND STATUS インジケーター

入力信号に合わせて点灯します。

表示	入力信号
青	以下のフォーマットのサラウンド音声信号 ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション、マルチチャンネルリニア PCM
オレンジ色	上記以外のサラウンド音声信号
消灯	無信号またはステレオ／モノラル音声信号

❺ VOLUME +／− キー

音量を調節します（☞10 ページ）。

❻ INPUT キー

再生する機器を選択します（☞10 ページ）。

❼ ⏻（電源）キー

電源のオン／スタンバイを切り替えます。

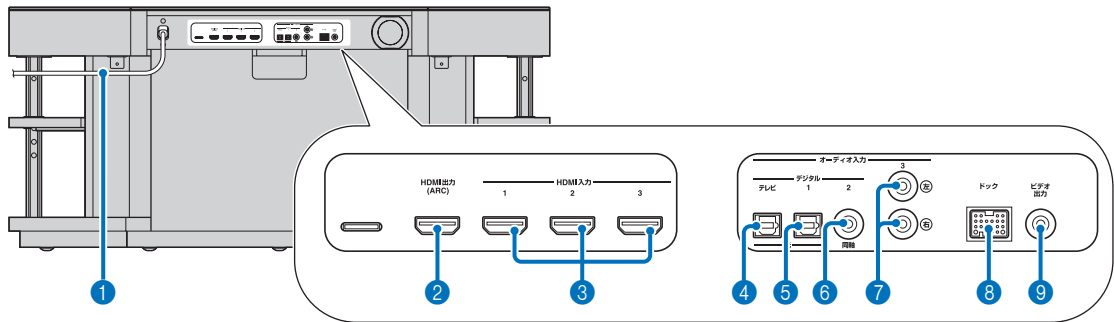
ご注意

スタンバイになっているあいだも、HDMI 信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

❽ システムインジケーター

システムの状態を表示します。

点灯	電源	HDMI Ctrl（☞19 ページ）	Interlock（☞15 ページ）
緑	オン	–	–
赤	スタンバイ	On	–
	スタンバイ	–	On
消灯	スタンバイ	Off	Off

リアパネル（背面）

① 電源コード
ACコンセントに接続します（☞6 ページ）。

② HDMI 出力（ARC）端子
テレビや他の外部機器とHDMI接続します（☞6 ページ）。

③ HDMI 入力端子
ブルーレイディスクレコーダーやチューナー、ゲーム機などとHDMI接続します（☞6、7 ページ）。

④ 光デジタル入力（テレビ）端子
テレビと光デジタル接続します（☞6 ページ）。

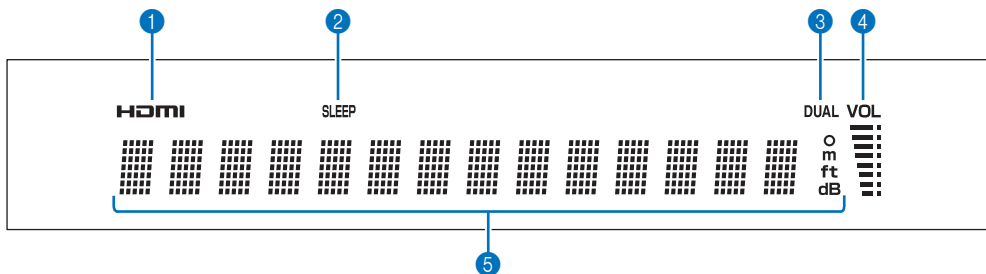
⑤ 光デジタル入力 1 端子
外部機器と光デジタル接続します（☞7 ページ）。

⑥ 同軸デジタル入力 2 端子
外部機器と同軸デジタル接続します（☞7 ページ）。

⑦ オーディオ入力 3 端子
外部機器とアナログ接続します（☞7 ページ）。

⑧ ドック端子
別売のヤマハ製iPodユニバーサルドックやワイヤレスシステム、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを接続します（☞14、15 ページ）。

⑨ ビデオ出力端子
iPod／iPhoneの映像を再生するためにテレビの映像入力端子と接続します。

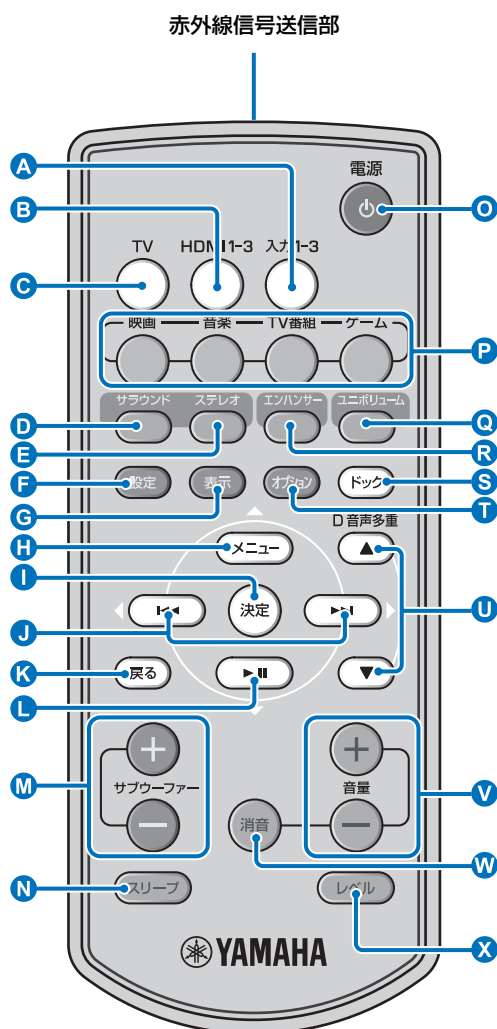
フロントパネルディスプレイ

① HDMI インジケーター
HDMI信号を入力しているときに点灯します。

② SLEEP インジケーター
スリープタイマーを設定しているときに点灯します（☞12 ページ）。

③ DUAL インジケーター
BS／CS／地上デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します（☞12 ページ）。

④ VOLUME インジケーター
現在の音量を表示します（☞10 ページ）。

⑤ マルチインフォメーションディスプレイ
設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。電源オン時には、再生する機器名と現在の音声出力方法が表示されます。

リモコン

A B C 入力選択キー
再生する機器を選択します（☞10 ページ）。

D サラウンドキー
サラウンド再生に切り替えます（☞11 ページ）。

E ステレオキー
ステレオ再生に切り替えます（☞11 ページ）。

F 設定キー
設定メニューに入ります（☞17 ページ）。

G 表示キー
フロントパネルディスプレイに表示する情報を以下のように切り替えます。
- Audio Decoder：使用中の音声信号デコーダー
- Input ／ Output：入力名／サラウンド（ステレオ）モード

H I J L メニュー（△）キー、決定キー、⏮（◁）キー、⏭（▷）キー、⏯（▽）キー
- 設定を変更します（☞17 ページ）。
- iPod を操作します。

K 戻るキー
ひとつ手前のメニュー表示に戻します。

M サブウーファー（＋／－）キー
サブウーファーの音量のバランスを調節します。

N スリープキー
スリープタイマーを設定します（☞12 ページ）。

O 電源（⏻）キー
電源のオン／スタンバイを切り替えます（☞10 ページ）。

P サラウンドモードキー
サラウンドモードを切り替えます（☞11 ページ）。

Q ユニボリュームキー
ユニボリューム機能のオン／オフを切り替えます（☞11 ページ）。

R エンハンサーキー
ミュージックエンハンサーのオン／オフを切り替えます（☞11 ページ）。

S ドックキー
iPod ／ iPhoneまたはBluetooth機器を選択します（☞14、15 ページ）。

T オプションキー
入力ソースごとの設定（オプションメニュー）に入ります（☞13 ページ）。

U ▲ ／ ▼ キー
- iPod ホイールを操作します（☞14 ページ）。
- ▲ キー：デジタル音声多重の設定を切り替えます（☞12 ページ）。

V 音量（＋／－）キー
音量を調節します（☞10 ページ）。

W 消音キー
一時的に消音します（☞10 ページ）。

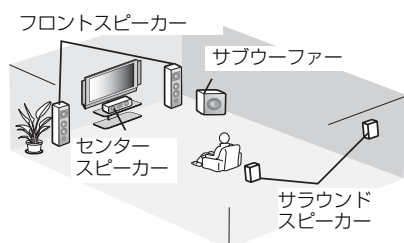
X レベルキー
再生中に音量バランスを調節します（☞11 ページ）。

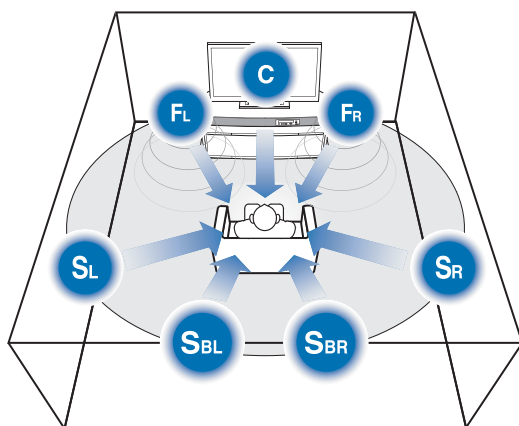
技術／用語解説

エアサラウンド・エクストリーム

本機は新しいバーチャルサラウンド技術とアルゴリズムを搭載しております。壁の反射を利用せず、フロントスピーカーのみで7ch サラウンド効果を生み出すことが可能です。

通常、5.1 チャンネルのサラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカー（2 本）、センタースピーカー（1 本）、サラウンドスピーカー（2 本）、サブウーファー（1 本）が必要です。

標準的な 5.1 チャンネルスピーカーシステム

バーチャル 7.1 チャンネル

エアサラウンド・エクストリーム技術を用いることにより、本機だけで、サラウンド、サラウンドバックを含む7.1 チャンネルの臨場感をお楽しみ頂くことができます。

本機は内蔵のスピーカーで7.1 チャンネルのサラウンド効果をつくりだします。
C：センタースピーカー
FR、FL：フロントスピーカー
SR、SL：サラウンド・バーチャルスピーカー
SBR、SBL：サラウンドバック・バーチャルスピーカー

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

チャンネル（ch）

音域の範囲や他の性質の違いによって分類されたオーディオの種類です。
例：7.1 チャンネル

- フロントスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- センタースピーカー（1ch）
- サラウンドスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- サラウンドバックスピーカー、左（1ch）、右（1ch）
- サブウーファー（1ch × 0.1* ＝ 0.1ch）

* さらに超低音を出すためのチャンネルです。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3 チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド2 チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFE チャンネルの合計5.1 チャンネルで構成されます。サラウンド2 チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート6Mbps で収録可能です。

ドルビープロロジック IIx

ドルビープロロジックIIの上位規格で、ステレオ信号やマルチチャンネル信号を7.1chで再生するための技術です。ドルビープロロジックIIの5.1chに対し、サラウンドバックの2chが追加されています。再生するソースに合わせて、映画用のMovieモード（2ch信号入力時のみ）と音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードの3つが用意されています。

ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz／24bit時には最大8chのディスクリート音声信号を、最大転送レート18Mbpsで収録可能です。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2／MPEG-4 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS ／地上デジタル放送で採用されています。最大で5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

Deep Color

本機のHDMI端子が伝送可能な映像信号です。RGBまたはYCBCR 信号の処理を、従来の8 ビットに対して10／12／16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

DTS

DTS社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット（音声圧縮技術）で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できます。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

DTS-HD マスターオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化（コード化）します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

x.v.Color

本機のHDMI端子が伝送可能な映像信号です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCG で高い効果が得られます。

主な仕様

アンプ部

- 定格出力
  フロントL／R (1kHz、1% THD、6Ω) ....45W+45W
  センター (1kHz、1% THD、6Ω).. 45W
  サブウーファー (100Hz、1% THD、3Ω) 90W
- 実用最大出力
  フロントL／R (1kHz、10% THD、6Ω) ....50W+50W
  センター (1kHz、10% THD、6Ω)..................................... 50W
  サブウーファー (100Hz、10% THD、3Ω) 100W

スピーカー部

- 型式 ....密閉／非防磁型
- スピーカーユニット（フルレンジ）.................4 × 10cm コーン
- 再生周波数帯域 .... 140Hz ～ 20kHz
- インピーダンス 6Ω

サブウーファー部

- 型式 .... バスレフ方式／非防磁型
- スピーカーユニット（フルレンジ）..........................13cm コーン
- 再生周波数帯域 .... 35Hz ～ 140Hz
- インピーダンス 3Ω

入力端子

- オーディオ入力
  光デジタル..2 個（テレビ、入力 1）
  同軸デジタル ....1 個（入力 2）
  アナログ...1 組（入力 3）
- HDMI 入力.. 3 個（HDMI 入力 1-3）

出力端子

- HDMI 出力.. 1 個
- ビデオ出力（NTSC、コンポジット映像、1.0 Vp-p)........... 1 個
- ヘッドホン出力（1kHz、460mV 入力、16Ω)........... 220mV

総合

- 電源電圧..AC100V、50/60Hz
- 消費電力...42W
- 待機消費電力
  (HDMI コントロール　オン時)................................... 5.0W 未満
  (HDMI コントロール　オフ時)................................... 0.5W 未満
- 寸法（幅×高さ×奥行き)................ 1000 × 450 × 450mm
- 質量...35.5kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

AIR SURROUND XTREME

本機は新しいバーチャルサラウンド技術とアルゴリズムを搭載しております。壁の反射を利用せず、フロントスピーカーのみで7ch サラウンド効果を生み出すことが可能です。

DOLBY TRUE HD

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」「Surround EX」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD™

米国特許番号：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 及び、その他米国や世界各国に出願し権利を保有する特許に基づき製造されています。DTS と DTS-HD、またそのシンボルマークは DTS, Inc. の登録商標です。DTS-HD、DTS-HD マスターオーディオ及び DTS のロゴは DTS, Inc. の商標です。「製品」にはソフトウェアも含みます。©DTS, Inc. 不許複製。

iPod™、iPhone™

iPod は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標です。

音を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

Bluetooth™

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は商標です。

UniVolume

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

対応する信号

HDMI

本機が受信可能な音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
ビットストリーム（SD オーディオ）	ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ	ブルーレイディスク、HD DVD

- 本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

本機が伝送可能な映像信号 1)

— 解像度
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz, 50Hz
- 1080i/60Hz, 50Hz
- 1080p/60Hz, 50Hz, 24Hz

— Deep Color
— x.v.Color
— 3D 映像信号

デジタル音声（光・同軸）

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-96kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video

1) 接続したテレビにより、対応する映像信号は変わります。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告　この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- 異常なにおいや音がする。
- 異常に高温になる。
- 内部に水や異物が混入した。
- 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機の⏻キーでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。
本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右5cm、背面5cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

ポート(背面開口部)などに異物を入れたりしない。
火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意　この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で梱包を開き、持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音がでたり感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁止

持ち運ぶときにはポート（背面開口部）や前面のサランネットに手をかけない。
ポートがはずれたり、サランネットが破れたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

ポート（背面開口部）には手を入れない。
感電やけがの原因となることがあります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
故障の原因になります。

禁止

下記のような場所に置かない。
- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

手入れするときは、柔らかい布で乾拭きする。合成洗剤や化学ぞうきんで拭いたりしない。
色がはげたり、外装が損傷することがあります。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月〜金曜日 10:00〜18:00　土曜日 10:00〜17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月〜金曜日 9:00〜18:00　土曜日 9:00〜17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月〜金曜日 9:00〜17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011) 512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

名古屋 〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

大阪 〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1